

編 集 後 記

徳島赤十字病院 外科副部長 湯 浅 康 弘

2016年度——東日本大震災から5年の月日が流れ、災害に対する備えを心新たにしていた矢先に熊本、鳥取と相次いで大きな地震がありました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたします。

プロ野球では広島カープが25年ぶりのセ・リーグ優勝を成し遂げました。「神ってる」カープの長期的な選手育成プランが実を結びました。日本一となったファイターズはシーズンを通して選手とのコミュニケーションや、現場を重視したフレキシブルな栗山監督の采配が光りました。

個々の研鑽もさることながら、目先の利益にとらわれず長期的なビジョンを持って、それぞれの能力を引き出していく。われわれの医療界にもあてはまる事だと思います。医療は一人では成り立ちません。良い組織を形作ることが結果として良い診療につながっていくのではないのでしょうか。

さて、われわれ医療人の仕事の一つに学会発表や論文作成があります。症例報告、臨床研究、治療成績の報告などその時々成果を世の中にアピールすること。こういった形でもいい、徳島赤十字病院で診療に明け暮れた今の姿を「形のある仕事」として残すには何かの論文にすることが第一です。第22巻となる徳島赤十字病院医学雑誌は、インターネット環境があれば、何年後かの自分も含め誰でもアクセス出来ます。是非今の自分の足跡を残して欲しいと思います。

先日アメリカ大統領にトランプ氏が就任しました。不安な要素もありますが、少しでもわれわれにとって良い方向に向かうことを期待して、編集後記とさせていただきます。